

## V241b 光赤外線大学間連携事業における初心者向けデータ解析講習会の実施報告

山中雅之, 川端弘治 (広島大学), 他光赤外線大学間連携メンバー

光赤外線大学間連携事業においては, 国内外に中小口径望遠鏡を持つ9つの大学及び国立天文台が有機的な連携によって共同して教育・研究活動を進めている. 本事業に参画する大学機関においては, 突発天体・変動天体を主たる研究対象としている大学院生が多く参画している. 従来までの大学院生を対象としたデータ解析指導は各大学機関ごとに委ねられていた. 一方で, 中小口径望遠鏡で取得されるデータは異なる望遠鏡・装置であっても, 解析には共通する基本的項目がいくつか含まれており, ネットワークを使った一斉指導によって, システムティックな指導が可能になると期待されていた.

そこで我々は, TV 会議システム zoom を通じて, 大学院に入学して間もない大学院生を対象とした初心者向けデータ解析講習会を開催した. 講習会は「基本知識と準備」, 「バイアス合成・処理」, 「フラット合成・処理」, 「開口測光」の計4回を実施した. 4月に入学したばかりの大学院生を主たる対象としており, IRAF だけでなく Linux/UNIX コマンドにも不慣れな学生を想定した. また, 遠隔指導を想定して, 独自のチュートリアルも作成した. 解析には, 広島大学かなた望遠鏡および HOWPol で取得された超新星の撮像データを用いた. 異なる5大学から計16名の大学院生が参加した. 実施直後にも参加者向けアンケートを実施しており, これらを集計した結果を報告する. また, 今後の光赤外線大学間連携を通じたデータ解析講習会についての計画についても報告する.